

元治二年
慶応元年

(二月)

(二月) 朔日

此日、長谷川、与八連れて来り候て試筆さしてくれ様**申事様**、無扨書画認さし候。私不認也。暫して帰り候。

*申事(様(ママ))

(二月) 二日

此朝八ツ時に起、雑煮祝て、暫致し候ても夜不明、又臥。夫より夜明て試筆する。此日、又与八、松太郎子来、認物相頼候ゆへ、無扨認遣し候。暫して帰り候。

(二月) 三日

此日、辻さまえ御礼二行、暫して帰り候。昼後より木津え帰り候。一宿する。雨中。

(二月) 四日

此日、松屋町え調物に行。

(二月) 五日

此日、松囃子にて**終いそかしく**候。又一宿。

*終(終日) *いそかしく(忙しく)

(二月) 六日

此日昼後、お千世子連れて中之島え帰り候。

(二月) 七日

此日、京師行の拵いたし候。七ツ時前、辻さまえ行、暫して帰り候。木津より太兵衛来り候を相待候へとも、**ね**から不来、もはや**こん**と存して、夕暮に川北え調に行候と**そんな**して門え出かけ候处、太兵衛子、柳田氏連れて来候ゆへ、早々**あわて候候**て船宿え行候へとも、大小船なく候て、おやの船にて上京致し候。明(以下、記述ナシ)

*ね(根) *こん(来ん) *そんな(存じて) *あわて候(候(衍))て

(二月) 八日

此日、節分御式も拝見いたし候。先々無事二年重ね候。夜明に伏見え着致、早々仕たくして発足いたし候。京師の焼、始て驚々入まいらせ候。四ツ時、参殿いたし候。御所え参る。

(二月) 九日

此日、御内御年酒有せられ候て、御客さま、沢三位様、園様、風早様、蓮観院様にて、昼時より始り、一更後に相濟せられ候。

(二月) 十日

此日朝より父さまと同道にて沢様え参り、暫して宮原え行、先生と御面会して、暫して知園院の辺より祇園え参詣して、寺町え寄、すもし呼れ候て、夫より帰り候。蛤御門の戦場の跡、真におそろしき物也。夕方に帰り候。此日、寿部院様、岩倉えならせられ候。

*知園院(知恩院)

(二月) 十一日

此日早朝より、父さま、近藤さまと私と岩倉え行候はつ^の処、曇天にて見合し候処、昼後雨中にて得不行、役所にて内匠子と合作する。此日、水薬師様の女藤さまならせられ候て、私画を見たくと仰せられ候まゝ、席画する。ひとく御満足あらせられ候。此夕、父さま、近藤さま、典膳、内匠さま、私、当座する。夜春雨、画梅。是済て、いろく珍談、四更二臥。此日、半切二枚、横物二枚、三幅対と認ル。

*はつ(筈) *女藤さま(上藤さま)

(二月) 十二日

此朝より、殿様、御むさくさまの御様子にて、岩倉え不行候也。

(二月) 十三日

此日も殿様御病。いつもの御虫と存候処、追々あしくならせられ候。

(二月) 十四日

此日、近藤さま申され候には、殿様此度の御病氣御六ツヶ敷ゆへ、外いしや呼くれ様申され、御内御一統大驚、夫より安藤、船引、呼に遣され、早々安藤伺候へとも、中々御病名も相不分、六ツヶ敷よし申され、猶更ビツクリ致し、夫より方々と御願を相掛、何ても私の命失とも御助申さねはならぬと、千世滝さま始、典膳、私、相きはり候へとも、何分御通しあらせられず、上え御あけ計にて、御体御よハリ斗也。此日三更頃に御親類様方え御しらせ被遊、皆々大驚也。此夜、風早様ならせられ候。万里小路様の豊浦さまも御止り被成候。

*いしや(医者) *あけ(上げ)

(二月) 十五日

此日同断、あしき最中也。御夜御通夜いたし候。

(二月) 十六日

此日より少々御ひらき御付せられ候。此夜、御通夜いたし候。夜、蓮観院様え上り、めさまし**哥かるた**致し候。

*哥かるた(哥カルタ)

(二月) 十七日

此日、又々御よろしくあらせられ候。御内大悦く也。此日、蓮観院さまよりの**御はた**の下絵蓮認候。

*御はた(御旗)

(二月) 十八日

此日、追々御よろしくあらせられ候。此夜、御通夜いたし候。此日、近藤子の扇面六枚認。

(二月) 十九日

日々御全快のよし也。

(二月) 廿日

此朝、千世滝さま、私、内匠さま、市、明石連、御廟え参詣いたし候。此日、追々御心よくならせられ候。此夜、御通夜いたし候。

(二月) 廿一日

此朝、専徳寺来、三部経上り候。此夜、御通夜いたし候。

(二月) 廿二日

此日、殿様追々御よろしくならせられ候。此夜**通御とき**いたし候。近藤子と悪口の哥合いたし候。

*御とき(御伽)

(二月) 廿三日

此日(以下、記述ナシ)

(二月) 廿四日

此日、半切山水二枚認、石山様えの三幅対松竹梅認、又細物認。此夕より、近藤子、内匠子、父さま、典膳子、私と合作、詩哥、画いろく面白き事也、三更頃迄。此(夜)、通夜いたし候。

(二月) 廿五日

此日昼後より北野さまえ参詣いたし候。父さまと民部子と私と伊助と也。帰り掛、土橋え寄、一服茶飲候て帰り候、夕方也。此(夜)、御通夜いたし候。此日、殿様御哥読せられ候。

水にすみ雲井にかけるこゝろかも浮世のあみはいかゝなるらん

皆々ヒツクリかん心いたし候。此日、青木建右衛門参殿いたし候。此日、木津より太兵衛迎へに来り候。

*ヒツクリ(ビツクリ) *かん心(感心)

(二月) 廿六日

此日早朝より御殿立て帰り候。寺町え寄、早々伏見え行。此時、昼也。もはや船一叟にて仕舞の処ゆへ、仕度もせず乗船いたし、天気よく船中一入の詠也。一更前に船着致し候。

*船一叟(船一艘) *詠(眺)

(二月) 廿七日

此日より稽古初也。辻さまえ行、暫咄して帰り、早々木津行候はつの処、時刻延引ゆへ相やめ候。此日、隣家初釜にて一幅呼れ、一更迄遊ぶ。

此朝、堂島渡辺橋にて壬生流人の騒動有。

*はつ(筈) *一幅(一服) *壬生流人(壬生浪人)

(二月) 廿八日

此日、八ツ上りして、早々木津え行候処、母さまえ参致され留主中にて、早速寺え行候処、常通寺殿の法論にて一坐聴聞いたし候。夜御坐にも逢て帰り候。一宿する。此日夜七ツ時、地震。

此日、伊藤軍八来。

(二月) 廿九日

早朝帰り候。

(二月) 晦日

此日、八ツ上りして、言宗皇帝の画認にかゝる。夜三更二臥。手本認ル。此日、京師え文出、寺町え昆布出。

此日、辻御後室御礼に來られ候。此日、典膳子より文来。

*言宗皇帝（玄宗皇帝）

（二月）

二月朔日

此日、子供半日致、木津え帰。八ツ時、法談逢、夜御坐ニも逢。此夜一宿。

（二月） 二日

早朝、帰中之島え。唐津額認。夫ヨリ言宗ニかゝる。夜三更二臥。

*言宗（玄宗）

（二月） 三日

此日八ツ時ヨリ井上氏え行、あき女教して、夫ヨリ有所遊ニテ喜厚子と長談。夕飯呼れ候て帰り候。二更二臥。

此朝五ツ時、地震。

（二月） 四日 初午

此日、子供半日上り。昼飯して天王寺え年礼に行。此道にて吉井え寄、暫咄して、天王寺え行候て暫致し候処、夕暮也。夫ヨリ木津え帰り一宿する。此日、京御殿より店走り文来。瓦の一件也。

（二月） 五日

早朝、中之島え帰り候。此日、絹地彩色にかゝる。此日八ツ時ヨリ雨中、日暮迄。夜二更二臥。

（二月） 六日

此日八ツ時より雨中。此時、辻氏え行、風呂入候て夕飯呼れ、帰る。此日、店走りにて瓦の一件ニ而或御見舞の品姉印様え出す。夜読書、法帖認ル。四更二臥。

（二月） 七日

此日、八ツ上りして、辻氏え教二行、又井上氏え教二行、夕飯食て帰り候。夕、隣家え行、一更迄遊ぶ。詩作。三更二臥。此日、堺中新え法帖出。吉井え盾眉随聞録通ス。

（二月） 八日

此日、扇子二本、書、短冊認、作図する。夜二更二臥。

(二月) 九日

此日、店走り書状、父さまより来。石山様より画の御用也。此日、法帖認。言宗認ル。夕、木村子来。此夜、二更二臥。

*言宗(玄宗)

(二月) 十日

此日朝、画帖認ル。八ツ上りして木津え帰り候。夕、難波竜宣寺お国寄の御坐有て参詣する。一宿。

*竜宣寺(流宣寺)

(二月) 十一日

早朝、中之島え帰り候。此日、辻氏え教二行、又井上氏え行、画手本認、又辻氏え寄、入湯して夕飯呼れて帰り候。夜二更迄読書する。

(二月) 十二日

此日、終日玄印認ル。此日、石山様より御頼の翌雛認、早々京師え出。夜、読書、二更迄。

*翌雛(豎雛)

(二月) 十三日

此日、玄印一寸認ル。八ツ後、金井子来、稽古致。此時、豊島氏来居処、宮原先生来られ候て夕方迄珍談。宮先生浪花引移りの一件、此度知恩院宮関東御下向ニ付御供致され候まゝ、浪花え御出暫延引、此義ニ付御出ニ而御坐候。夜一更二臥。

*此義(此儀)

(二月) 十四日

此日、玄印認ル。夜、読書、詩作、七ツ時迄。

(二月) 十五日

此日、子供半日休。昼時より後藤え嫁入祝物持参して、暫遊。夫ヨリ辻氏え行、入湯して帰り、此時、皆森ヨリ呼に來、行候処、棠洲画見せられ候。薄茶呼れ而、良暫シテ帰り候。又隣家にて遊ぶ。其内日暮、夜四更迄縫物。

(二月) 十六日

此日、玄印認ル。雨中也。夜四更迄読書、詩作、和歌。

(二月) 十七日

此日、八ツ上致、井上氏え行、教済候而、有所遊ニテ薄茶一服飲、すもし二而一酒、暫遊。夫ヨリ辻氏え行、教シテ帰り候、夕暮也。夜三更二臥。読書。

(二月) 十八日

此日、後藤え行、十八史略二読、帰り、法帖或画帖認ル。夜三更二臥。読書、詩歌作。此日、京師ヨリ着物、帶來。

(二月) 十九日

此日、玄宗認ル。夜三更迄読書、和哥。

(二月) 廿日

此日昼時、知明院さま、真光寺、治部卿さま御出、暫御咄して帰られ候。此朝、辻氏え教ニ行、後藤え行候。八ツ後、入湯して帰り、此日、極寒風強、画不認候。夜三更迄、向仏前唱経。

(二月) 廿一日

此日、終日認物。玄宗認上ル。井上氏の半切蝶認ル。七ツ時、京前田、浪花や主人連れて来られ候。暫して日暮帰られ候。此日、京師姉印さまえ文、沈香出。夜、読書、一更二臥。

(二月) 廿二日

此日朝、八尾慈願寺画帖認ル。八ツ上りして、辻氏え教に行、又井上氏え教に行、帰り、夫よりとかく書画展観有候て行、暫遊ふうち日暮にて皆々帰られ候まゝ、私も帰り候。木津え行。夜、難波竜宣寺え参り法話聞、一更二帰り一宿。

*竜宣寺 (流宣寺)

(二月) 廿三日

朝、中之島え帰り候。此日、写物。此日、京師姉印え店走り書状出。夜三更二臥。

(二月) 廿四日

此日、八尾慈願寺認物する。夜三更迄詩作、和歌。

(二月) 廿五日

朝、子供教して早上り、夫ヨリ天満宮え参詣して帰り、又木津え帰り、母さまと同道にて天王寺え参詣して、清水寺、安居の辺ふら／＼と歩いて、また日も高く候まゝ、舍利寺え参詣して、夫ヨリ又天王寺念仏堂にて法話聴聞して帰り候、日暮也。夕暮て難波竜宣寺え

参詣する。則法話有。一更二帰り候。

*竜宣寺（流宣寺）

（二月） 廿六日

明六ツ起して中之島え帰り候。此日昼後、勝間長源寺衝立画願に来候。暫して帰られ候。此日、金井氏画稽古に来り候。是相済、短冊四枚認ル。夜二更二臥。

（二月） 廿七日

此日、短冊認ル。七ツ時、石田源兵衛来、一宿願れ候まゝ、無扨相止候。私、隣家にかりねする。此日、京師より店走り書状来候。夜まけにて一更二臥。

*かりね（仮寝）

（二月） 廿八日

朝、石田氏帰られ候。此日、短冊廿枚認上ル。

（二月） 廿九日

此日、雨中。朝よりひへ強、八ツ後臥。金井子稽古に来られ候。此日、京師え店走りにて短冊、一書添て出。

*ひへ（冷へ）

（三月）

三月朔日

此日昼後、木津え帰り一宿する。昼迄掃事する。京師ヨリ風呂敷包着。

*掃事（掃除）

（三月） 二日

朝、木津より帰り候。コテく終日する。諸払済。夜三更迄和歌。

（三月） 三日

此日、隣家兩人、私と連て道明寺参詣の趣工致し候処、豊島子、朝より持病にて不行候也。昼後、辻氏え行、お雛さま御膳呼れ、夫より高橋え行、暫して木津宗詮え行、夫より井上氏え行、遊所有にて馳走、日暮て帰り候。夜三更二臥。

*趣工（趣向） *遊所有（有所遊）

(三月) 四日

此日、昼迄和歌。昼後、おゆきさまと同道にて鶴万寺へ行。花満開、遊人にきくしく、暫して樋の口へ行候処、花未開候へとも人多さハカしく、暫堤歩行して帰り候。未七ツ時ニ隣家にて一服する。其内、荒本氏来、暫して帰られ候。読書、三更迄。
*にきくしく(賑々しく) *さハカしく(騒がしく)

(三月) 五日

此日、荒本氏、湊焼師連て来、一服出す。此時、応挙軸天王寺え監定頼来り、点書する。夫より早々天王寺へ行れ候。此日、雨中。八ツ時早々木津え帰り一宿する。

*監定(鑑定) *点書(添書)

(三月) 六日

朝、雨中帰り候。八ツ時後、金井子、画稽古に来り候。夜三更迄読書、和歌。

(三月) 七日

早朝、父さま、民部子、卯之助連て帰られ候。昼飯して木津え帰られ候。夜三更二臥。読書、手本認。

(三月) 八日

此日八ツ後、井上氏え行、教して帰り候。夜(以下、記述ナシ)

(三月) 九日

此日朝、民部子来、稻落芝居え父さま行れ候まゝ、来様申来、子供半日早上りして稻荷へ行。日暮済。芸、菅原、切、お駒才三。私独中之島え帰り候。頭痛にて早臥。

*稻落芝居(稻荷芝居)

(三月) 十日

此日昼時、父さま、民部、来られ候て、見世物え連行よし申居られ候へとも、此日、金井子来候ゆへ、不得行候也。金井子、昼時より七ツ時迄居られ候。夕方より隣家にて池田子と一更迄茶飲、珍談する。

(三月) 十一日

此日昼後、父さま皆々帰られ候。七ツ時より御無事乗船致され候。夜(以下、記述ナシ)

(三月) 十二日

此日、連落鶴三枚認ル。此日、至而暖気にて、夕方より雷電はけしく候、一更二迄。二更

二臥。読書、手本認。三更二高木屋橋出火。
*一更(二(ママ))迄

(三月) 十三日

明かた大雷雨。終日扇面認。此七ツ時前、靱光園寺来られ候て、十六日薩摩堀願教寺花見にて、前川ヨリ乗船人待合す為、隣家席借に來られ候。豊島氏、早速承知致され候。此夜、扇面認、三更二臥。

*光園寺(光円寺)

(三月) 十四日

此日八ツ後、全紙二枚、半切四枚、書認。

(三月) 十五日

朝より木津え帰り、夫ヨリ楚山先生え行、暫して帰り、此時、山口氏え寄、又暫咄して帰り、木津にて手本認候処、雨降候まゝ、唯専寺え行候処、此日庭花見にて、玉泉寺後室、二位、三庵、外に連客有。暫遊ひ候処、七ツ時にて、もはや延刻にて一宿。

(三月) 十六日

此日昼時、京印より店走り文来。八ツ後、金井子来、画書稽古致され候。夜一更二臥。此朝六ツ起して帰り候。中之島にて夜明也。此時、光円寺、円徳寺子来、良暫して、願教寺来られ候也。此日、長谷川善兵衛来り候。

(三月) 十七日

此日昼後、辻氏え教に行、夫より井上氏え行、教して風呂入して帰り候。八ツ後、隣家御雪様と同道にて近安え絹地調に行、又和泉吉え行、七ツ時に帰り候。夜二更迄読書、法帖認ル。此日、後藤先生、画頼みに來られ候。

(三月) 十八日

此日八ツ後より連落浪鶴認、半切鯉二疋認ル。

(三月) 十九日

早朝より隣家兩人播州え出立致され候。此日八ツ時、青木雅信、生玉万陀羅院來られ候て、良暫和歌読れ、画讚。七ツ前迄遊居られ候。夜二更二臥。

*生玉万陀羅院(生玉曼陀羅院) *読れ(詠れ)

(三月) 廿日

此日、作図。夜二更二臥。

(三月) 廿一日

此日、作図。終日雨中。三更二臥。此日、瓦屋仁太郎子羊羹持参して来り候。

(三月) 廿二日

此日八ツ後より楚山先生え行、暫画相談して帰り懸、**瓦や橋**吉井え寄、中之島え七ツ時に帰り候。此日、御勅使、松屋橋御通行有之候。陵御巡見也。夜一更迄読書。

*瓦や橋(瓦屋橋)

(三月) 廿三日

此日昼時、石田氏来、八ツ時後、帰られ候。

(三月) 廿四日

此日、草稿認ル。夜、少々腹いたみ、早臥。

(三月) 廿五日

終日大雨。昼後、辻さまえ行、教して入湯、襟掃事してもらい候。暫遊ぶ。もはや七ツ時也。帰り、コテくして終日相くらし候。夜、三更臥。読書。

*掃事(掃除)

(三月) 廿六日

此日八ツ時、井上氏より呼に來候まゝ、八ツ後、行候処、**明石わ上さま**來られ候て席画する。いろく御咄し有て、もはや七ツ時にて引取候也。此日昼前、播州山田より紙包着。夜二更迄読書。此夕**半時**、京師大火。

*明石わ上さま(明石和上さま) *半時(飯時)

(三月) 廿七日

此日、絹地高砂二かゝる。夜、円刀掛認ル、二更迄。

(三月) 廿八日

此日、高砂認上ル。夜、刀掛認ル。二更二臥。

(三月) 廿九日

此日、刀掛認。夜二更迄読書。

(四月)

四月朔日

此日朝より京師半切認懸ル処、母さま御こし遊し候。此時、百清来、暫居られ候て、帰られ候。母さまと同道にて木津え帰り候処、天下茶屋叔母来られ候て、三人連にて願泉寺え参詣する。西法寺さまの御法話御坐候也。夕方果ル。夫より私、中之島え帰り候。一更迄読書。

(四月) 二日

此日、京師半切認上ル。夫よりのほり下図にかゝる。此日、京師より跡月廿四日出、風呂敷包着。此日早々京師え返事出。瓦いまた不着也。

*のほり(幟) *跡(後)

(四月) 三日

此日、下図認ル。京師え半切出。泉吉え極製朱一両、コフン一両、文にて飛脚遣。夜二更臥。短冊草稿認ル。みつ女(三)療治してもらふ。

*コフン(胡粉)

(四月) 四日

此日朝、後藤より使岩治郎子来、画の義ニ付一寸来てくれられ候よしにて早々行、いろ／＼画の相談して、昼時二帰り候。終日下図認ル。夜三更二臥。

*義(儀)

(四月) 五日

此日、画草稿認ル。

(四月) 六日

此日、画草稿認ル。

(四月) 七日 (慶応ト改元)

此日八ツ時後より木津より天王寺え行、暫咄して、七ツ時帰る。木津にて一宿。

(四月) 八日

此日昼前より、中野太郎兵衛方え母さまと同道にて一大事聞に行、真に安心決定いたし、此うれしさ不及筆紙に不及候也。日暮、木津え帰り、雨中、中之島え帰る。

*〔不及(衍)〕候

(四月) 九日

此日、刀懸認ル。夜も刀懸認ル。二更二臥。此夜、楚山先生より草稿来ル。

(四月) 十日

此朝、後藤え草稿見せに行、帰り、旗認にかゝる。夜二更迄旗認ル。

(四月) 十一日

旗認ル。夜三更迄認物する。此朝早々、肥前人、**書画状**頼みに来り候。此日、勝間長源寺**住寺**来られ候て、衝立五月節句、休日ニ認ニ行候約束いたし候。青木雅信子来られ候。

*書画状(書画帖) *住寺(住持)

(四月) 十二日

此日、大体旗認上ル。此朝、肥前人来候也。八ツ後、津の江中村子息来られ候。又**うつほ**光円寺来られ候也。夜三更迄旗認ル。

*うつほ(靱)

(四月) 十三日

此日、終日旗認ル。夜三更迄認ル。

(四月) 十四日

此日、終日旗認ル。夜二更迄。

(四月) 十五日

朝、植松岩治郎子、旗取に來。八ツ時、漸落製。岩治郎子、昼時、又取に來、昼後、知明院さま来られ候。右旗落製、早々後藤え持参する。此時、小田原留主居石崎来られ候て、酒肴出候て、七ツ時に**早られ候**。夫より落款する。大印なく、早々雲涯子ニ頼み、急印作して**大困雜也**。日暮早々、後藤先生、雲外子、岩治郎子、竜章堂、私、五人連にて、**筋達橋え素麦**食に行、一更二帰る。三更二臥。

*早(々帰)られ *大困雜(大混雜) *筋達橋(筋違橋) *素麦(蕎麦)

(四月) 十六日

此日朝、**川しま子**来、五月懸旗頼まれ候。八ツ時後、百足屋清兵衛子来、肖像頼まれ、顔写。此時、岡仙治郎子来、暫咄して帰られ候。扇子一本認。

*川しま子(川島子)

(四月) 十七日

此日、雲外子需扇子三本、書画帖二枚認。肥前人ヨリ頼み候。此朝、木津お千世さま来られ候也。此夕、松助方へ行。夜二更二臥。此日、京師え筆頼みの文出ス。

(四月) 十八日

此朝より唯専寺菊江女、今女連れて来候て、預り候。此日、川しま子旗認にかゝる。此日、京父さまより文来、瓦着致候よし申来り候。夜、手本認。二更二臥。

*川しま子(川島子)

(四月) 十九日

此日、八ツ上り、早々菊江子連れて、泉吉え調物二行、木津え帰り、菊江子唯専寺え返す。此夜一宿。

(四月) 廿日

早朝、中之島え帰り候。此日、旗認ル。夜二更迄法帖認ル。京師より筆来。

(四月) 廿一日

旗認ル。

(四月) 廿二日

此日、旗認上ル。

(四月) 廿三日

此日、刀懸認ル。此日、京師父さまより金子の添状斗来。此日、唯専より十助来、菊江子の衣物返ス。

(四月) 廿四日

此日、刀掛認ル。此日、京師より瓦ノ金子廿七両落手致ス。此日、井上氏より嵯峨饅頭一箱来、京師え出ス。

(四月) 廿五日

此日、子供昼迄限り休、刀掛認上ル。上田取次にさく認にかゝる。八ツ時より天満小門様にて光觴寺さまの法語聞二行、帰り懸、天神宮え詣して帰り候。山崎鼻え遊二行、暫して帰り、日暮。夜縫物する。

*たにさく(短冊)

(四月) 廿六日

此日、短冊認ル。夕方より上田氏の浄瑠璃、浜にて催され、呼に來、行。一更二濟、帰り、三更二臥。

* 浄瑠璃 (浄瑠璃)

(四月) 廿七日

此日、短冊認ル。夜三更二臥。

(四月) 廿八日

此日朝、いた餅弁之助、母親と同道にて京師より帰り來、朝飯して帰り候。八ツ後、辻きまえ行、教して入湯して、井上氏え行、教、又法帖認候て、夕飯呼れ候て、帰り候。夜三更二臥。書見する。

* いた餅弁之助 (板餅弁之助)

(四月) 廿九日

終日、短冊認。

(四月) 晦日

終日、短冊認ル。八ツ時後より泉吉え箔調に行、帰り、又認物。夜三更迄認物。京師より廿九日出書状着。此夕、五靈え調物に行。

* 五靈 (御靈)

(五月)

五月朔日

此朝より短冊認、昼時落製する。八ツ時より後藤え御札二行、又木津え行、夫より天王寺え御札二行、暫咄して、日暮木津え帰り、一宿する。

京師より廿八日出着

(五月) 二日

早朝、中之島え帰り候。此朝、肥前藩中荒川新蔵と申人、画帖物六枚取に來。昼過、植松岩治郎子画札に來。

(五月) 三日

此朝より上布せんたくして、しんし張して、七ツ時迄に仕立上ル。
*せんたく(洗濯) *しんし張(伸子張)

(五月) 四日

此日、子供来、昼時より放習。此日、掃事。七ツ時、諸払済て、木津え帰る。一宿。
*掃事(掃除)

(五月) 五日

此日朝より、母さまと同道にて勝間長源寺え行、衝立どうさして、沖え遊に行、暫して帰り、衝立驚認ニかゝる。此夜一宿。
*どうさ(礬水)

(五月) 六日

此日、驚認上ル。玉堂富貴認ニかゝる。落製する。七ツ時より木津え帰り候処母さま留主中にて、唯専寺え行、暫遊ぶ。帰り、一宿。

(五月) 七日

昼後、木津より天満小門様え参詣する。七ツ時前、帰る。隣家にて薄茶呼れ、又夕飯呼れ候。夜手本認、三更二臥。

(五月) 八日

此朝、井上氏え教に行、手本認、昼時帰り候。八ツ時後より辻氏え教に行、暫して帰り候。

(五月) 九日

此朝、対州清堅訪来。暫いろく咄して帰り候。此八ツ時後、小門さまえ参詣する。夜五更二臥。

(五月) 十日

此日、終日大雨。八ツ時後、辻氏え教二行、長居する。七ツ時前、帰り候。此日、野原良女入門有。

(五月) 十一日

此日八ツ時後、天満え参詣する。

(五月) 十二日

此日昼後、堺荒木氏来、良暫居、八ツ時後二帰られ候。早々井上氏え行、七ツ時に帰り候。

此夕暮、長谷川来候へとも不逢候。夜一更迄和歌いたし候処、腹痛にて臥。益腹痛ひとく、三更頃、已往生のかくごういたし候処、上ヶ下し、夜明かたより少々寐むり候。
*かくごう(覚悟)

(五月) 十三日

此日、終日臥。折々いたため候。隣家より白カユナド煎て持来られ候て、此日凌。

*白カユ(白粥) *煎て(煮て)

(五月) 十四日

此日、追々よろしく候へとも、折々いたみ有。

(五月) 十五日

此日、子供半日休して、七ツ時前より木津え帰り、一宿。

(五月) 十六日

此日、帷子一枚仕立ル。絹地張、京行こしらえ物する。

*こしらえ物(拵え物)

(五月) 十七日

此日、子供八ツ上りして入湯する。夫より辻氏え暇乞二行、良遊ぶ。夫より大小え船申付に行、帰り、弁当外いろくこしらえ物する。其内、太兵衛来。七ツ時後より泛舟、一更頃迄雨中、夫より雨晴、真に清光、乗月行まゝに、

雨雲はいつしか絶て八幡山こゝろ清くもはるゝ月影
なと読つゝ、(翌日へ続く)

*こしらえ物(拵え物)

(五月) 十八日

淀にて東白む。夜明、伏見着。仕度して五ツ時参殿いたし候。此日、円通寺にて御法事有せられ候。君様、寿部院様、ならせられ候。

(五月) 十九日

此朝、専徳寺にて御法事、父さま、千世滝さま、私、参詣する。御池え寄、専徳寺にて昼飯して後、帰殿いたし候。

(五月) 廿日

此朝、五ツ時より御法事、常見院、松林院にて。御殿御上御一統御参詣有せられ候。昼後、済せられ候。此夜、通夜する。御百万いたし候。此日、風早様ならせられ候。

(五月) 廿一日

常見院本堂にて御せかき、朝五ツ時より。此日も御上御一統御参詣有せられ候。昼時に済、御殿にて御非時有、風早様、園様、御参詣有せられ候。皆々御非時済せられ候て、御仏間さまにて音楽御坐候。此日、堺新兵衛参殿いたし候。

*御せかき(御施餓鬼) *御仏間さま(御仏間様)

(五月) 廿二日

此日終日御殿にて遊ぶ。此夜、役所にて、父さま、典膳、民部、内匠子、監物子、私、珍談、四更迄。此朝、帰帰のつもり、迎不来、止。此日早々、店走りにて文大坂え出。

*帰帰(帰坂)

(五月) 廿三日

此日昼後より、寺町、大谷辺え遊びに行、夕方帰り候。

(五月) 廿四日

此朝、太兵衛迎来り候。大雨にて帰坂止ル。終日遊ぶ。此夕、蓮さまえ遊びに行、御楼にて御咄し有らせられ候。

(五月) 廿五日

早朝より出立いたし候。父さまも同道也。昼時泛船。此日、鬱々しき天気にて不雨降して、帰て河或山の気色、殊更雲などかりて面白く、所々艶気写し、八幡山詠し(候)まゝに、なき君を思ひ出して、帰る舟にて、

なき君を恋しと鳴か郭公御幸有にし男山にて

なき君の御幸有しと詠むれはいや恋しさの男山かな

声もくもりて、父さまと昔の御幸の節、御供いたされしいろ／＼のはなしして、長き日もついくれ行まゝに、浪花え着致し候。八軒屋大坂やにて仕度して、中之島え帰り候。早々、父さま、太兵衛、木津え帰られ候。

*かりて(かゝりて) *はなし(咄)

(五月) 廿六日

此日、八ツ上りして、辻氏え教に行、暫して高橋え行、画の相談いたし候て、七ツ時に帰り候。夜三更二臥。

(五月) 廿七日

此日八ツ前、父さま来られ候て、七ツ時、乗船致され候。川しま来り候。

*川しま(川島)

(五月) 廿八日

此日八ツ後、緑橋川卯え文持行、帰り、井上氏え教二行、画帖認ル。七ツ時より木津え帰り候。一宿する。此日、今村林鹿来られ候。

(五月) 廿九日

早朝、中之島え帰り候。此日、川しま来り候。

*川しま(川島)

(閏五月)

閏五月朔日

此日、八ツ上りして、茶箱認ル。夜二更二臥。

(閏五月) 二日

朝、辻氏え行、帰而、扇子認ル。

(閏五月) 三日

此日、二幅対下絵作。此日、高橋宗匠、画の義二付来られ候。暫して帰られ候。

*義(儀)

(閏五月) 四日

朝、今村林鹿、菊池八左衛門来、暫咄して帰られ候。此日、辻、井上氏え教に行、七ツ時帰り候。此夕方、長谷川来り候。此日、草稿認ル。

(閏五月) 五日

八ツ上り、早々木津え帰り候て、天王寺楚山先生え行、日暮帰り、木津にて一宿。此日、京師より四日出店走り書状着。

(閏五月) 六日

此朝、中之島え帰り候。

(閏五月) 七日

終日大雨。

(閏五月) 八日

此日、木津え帰り、日暮、中之島え帰り候。三更二臥。

(閏五月) 九日

此日、京師え紙包出。

(閏五月) 十日

此日、八ツ時より井上氏え行、七ツ時、帰り候。夜三更二臥。

(閏五月) 十一日

此日、中之島え文、法帖出。川しま扇面頼に來り候。

*川しま(川島)

(閏五月) 十二日

此日朝、太兵衛子來、着物類持帰す。草稿認ル。夕、門ニテ納涼。來々堂茶箱携來、茶吸。月清光。四更二臥。

(閏五月) 十三日

此日八ツ後、井上氏え行、教、法帖認。日暮、帰り候。此朝、高橋え行、画の義相談。夜三更二臥。

*義(儀)

(閏五月) 十四日

此日(以下、記述ナシ)

(閏五月) 十五日

此日、子供半日上りして、八ツ時後、泉吉え絵具調ニ行、帰り、草稿認ル。

(閏五月) 十六日

此日、天井認ニかゝる。

(閏五月) 十七日

此日、天井認上ル。此夜、扇面認ニかゝる。

(閏五月) 十八日

此日八ツ後、辻氏え教二行、帰り、木津え帰る。

(閏五月) 十九日

此日朝、中之島え帰り候。八ツ後、扇面認ル。

(閏五月) 廿日

此日八ツ後、扇面百十枚落製。夜、仏前にて念仏誦誦して、四更二臥。

(閏五月) 廿一日

此日、養物画帖認ル。夜三更二臥。此日、二幅対草稿認。

(閏五月) 廿二日

此日八ツ後、井上氏え行、七ツ時帰る。三更二臥。此日、宗詮来り候。

(閏五月) 廿三日

此日朝、辻氏えカジカ写生二行、暫して帰り候。八ツ後、高橋え行、暫して木津氏え行、又暫して帰り候。夜一更二臥。此日、宮原先生来られ候。暫咄して帰られ候。

(閏五月) 廿四日

此日八ツ後より画帖物二枚認ル。此時、田淵熊七子入門仕され候。此後刻、土州桑名権蔵子来られ候て、主人山内包吾さまの御頼物、唐紙八ツ切五、六枚、詩哥画題成物頼置れ候。夕方迄居られ候。夜一更、大雷鳴、大雨。

* (仕さ(ママ)) くれ

(閏五月) 廿五日

此日、休日。朝より辻氏え教二行候て、夫より薩摩堀名越え行はつ^つの処、腹痛にて此日臥。此日朝より大風。昼時、母さま智明院子と同道にて来られ候て、八ツ時、帰られ候。將軍、七ツ時前、入城致され候。八ツ時より大風雨、七ツ時に止。

* はつ (筈)

(閏五月) 廿六日

此日、終日臥。腹痛、又風邪。夜も早臥。

(閏五月) 廿七日

此日、土用入。子供半日上りして、昼時より薩摩堀名越え行、七ツ時前に帰り候。夜一更迄門納涼する。此日、天王寺え使する。

(閏五月) 廿八日

此日、雨中。終(日)、画認ル。夜二更迄手習。

(閏五月) 廿九日

此日、大風雨。蛙認ル。

(閏五月) 晦日

此日八ツ後より木津え帰り、一宿する。

(六月)

六月朔日

朝、楚山先生え行、暫して帰り、山口え寄、帰り候処、雨降候而不止、終日。無抛又木津にて一宿。

(六月) 二日

朝、中之島え帰り候。昼時より名越え行、八ツ時二済、願教寺え参詣する。法論二坐逢て帰り候。夜三更二臥。

(六月) 三日

此日、半切三枚認上ル。夜一更迄納涼する。此夕、所々橋門閉。此日、京師え暑中見舞出。

(六月) 四日

此日昼後、山片え画持行、夫より高橋え画持行、又梶木津え行、一服茶飲て、井上氏え行、七ツ時前帰り、辻氏え暑中見舞持行、入湯、夕飯呼れ候て帰り候。一更迄納涼する。

(六月) 五日

此日、土州山内包吾子より御頼みの詩哥画題物認ル。夜二更二臥。

(六月) 六日

此日、法帖認、又画題物認ル。此日、名越愛之助来候。夜二更二臥。

(六月) 七日

此日、画題物八枚製落する。高橋宗匠暑中見舞に來られ候。又土州桑名氏、画取に來られ

候。

*製落(落製)

(六月) 八日

此日昼後よりヒゲ剃宗久寺え参詣する。七ツ時後、帰り候。唯専寺にて夕飯呼れ候。暫して帰り一宿する。

*ヒゲ(髭)

(六月) 九日

朝、雨中帰り候。此日、越前岩蔵子よりの画五枚認上ル。昼後、辻氏え行、又井上氏え行、灯笼、法帖六枚。夕方、帰り候。読書。三更二臥。

(六月) 十日

此日八ツ後より、木津え人別の義二付帰り候。唯専寺にて夕飯して、一更迄遊ぶ。帰り臥。此日、京師より便有。銀鴛鴦香合来。

*義(儀)

(六月) 十一日

朝、中之島え帰り候。昼後、薩摩堀名越え教に行、稽古済て、西御堂教願寺使僧法談聞、果て、備後町え参詣する。夫より中之島え帰り候。

(六月) 十二日

此日、終日草稿認。

(六月) 十三日

此日、三ツよ姫草稿、肖像草稿認。

(六月) 十四日

此日昼後より西御堂さまえ参詣する。教願寺法話三坐逢。此時、大雷鳴一ツ有。此坐済、備後町え行、二坐聴聞して、夫よりヒケ剃宗久寺え参詣する。夫済て黒門大黒屋え参詣する。此時より大雨降、是済てはたしにて帰る。夕方後に木津え帰り候。

*ヒケ(髭) *はたし(裸足)

(六月) 十五日

此日、雨中にて不帰られ、唯専寺え遊行、日暮、帰り候。

(六月) 十六日

昼後より母さまと同道にて御堂さま迄来、夫より別而帰り候。

(六月) 十七日

此日、**五霊**神事。

*五霊(御霊)

(六月) 十八日

此日、京師より包物来、**民部義**此年十六歳二付、月見御祝行れとの蓮観院様より御沙汰にて、則十六日夜月見の御祝遊し下され、夫二付、蓮観院様より御所の御古さらし召物戴、寿部院様より無地召物、君様より島帷子、殿様より金二百疋、千世滝さまより帯、父さまより袴、皆々夫々様より御祝戴、冥冥加**到極**也。

*民部義(民部儀) *到極(至極)

(六月) 十九日

此日、辻氏え教二行、夫より井上氏え教に行、地白島帷子一反到来候。

(六月) 廿日

此日昼後、木津え戴物持参する。一宿する。

此日、播州善立寺主来られ候。

(六月) 廿一日

此日早朝、中之島え帰り候。美濃大垣藩よりの画帖、扇子認ル。此夕、後藤え頼物有候て行、暫して木津氏え行、帰り候。此日、善立寺よりの画帖認ル。

(六月) 廿二日

此日夕、善立寺主人、陣羽織二組頼来られ候。

(六月) 廿三日

此日、縫忠より頼みの**のうれん**竹認。陣羽織二組認上ル。

*のうれん(暖簾)

(六月) 廿四日

此朝、薩摩堀西村え行**はつ**の処、道不分候て、又々引帰り候。井上氏え教に行、夫より辻氏え寄、入湯して帰り候。お久の子と同道也。夕方迄居られ候。

*はつ(筈)

(六月) 廿五日

天満祭り至て静。渡御、地車、台灯籠一切相止、実、平生同様也。

(六月) 廿六日

此日昼前より、玉泉寺後室さま、二位子、唯専寺後室、三人連にて来られ候て、天神え参詣仕られ候。昼後、又来られ候て、いろく不礼遊ひして、夕飯して、私も共に土橋え行、一宿する。

(六月) 廿七日

早朝、中之島え帰り候。

(六月) 廿八日

昼後、絹張いたし候。八ツ後時より木津え帰り候。此日、法事。夕方より御経二逢、一宿する。

(六月) 廿九日

此日、一宿する。昼飯**唯専寺**にて呼れる。又夕方より行、一更迄遊ぶ。

*唯専寺(唯専寺)

(七月)

七月朔日

早朝、中之島(え)帰り候。夫より又名越二行、昼飯呼れ候て帰り候。

(七月) 二日

此日、短冊十枚認ル。則、加々林需也。

(七月) 三日

此日昼後、辻氏え教に行、帰り、大暑にて遊ぶ。京師より文来、連月宿題来。木津より文、人参種来。

(七月) 四日

朝、辻氏え行、又井上氏え行候。八ツ後より木津え帰る。此日、京師え金子入文出。

(七月) 五日

此日、七夕祭して終日賑々しく、**半時**相済、夫より腹痛、終夜いたみ通し。
*半時(飯時)

(七月) 六日

腹痛、昼時より相止。終日臥。

(七月) 七日

早朝、私荅人帰り候。此日、七夕祭りして、八ツ半時より子供をとりして、日暮相済。
*をとり(躍り)

(七月) 八日

此日昼後より絹地三ツよ姫墨書する。

(七月) 九日

此日、彩色ニかゝる。京師え素麵出。天王寺え金子入文出ス。京師より文来。

(七月) 十日

此日限り子供休。終日彩色物する。木津え上布出。

(七月) 十一日

此日、終日彩色する。此日、京師え金子入出。

(七月) 十二日

此日、高橋、後藤え御祝義持参する。夫より井上氏え御祝に行。長州一件相済候也。此日、美人落製。

*祝義(祝儀)

(七月) 十三日

此日、美人梶木町え持行置、夫より木津え帰り一宿。

(七月) 十四日

此朝、中之島え帰り候。**掃事**する。夕方、諸払相済候。此朝、金子二両二步入書状、父さまより来。此夜、二更迄和歌。

*掃事(掃除)

(七月) 十五日

此日昼後、辻、高橋、井上氏え御礼二行。

(七月) 十六日

此日昼後、井上氏より呼に來、行遊ふ。夕方、帰り候。此時、高橋おかしさまも居られ候て、同道して帰り候。高橋さまにて暫遊ふ。夫より帰り候。月清光。一更迄納涼。夫より和歌、四更迄。

(七月) 十七日

此日(以下、記述ナシ)

(七月) 十八日

此日朝より辻氏え教に行、夫より木津氏え行。此日、堀田氏、山田氏、外に二人、度哉院さまも居られ候。暫茶飯、夫より井上氏え教に行、暫して帰り候。昼時也。上田氏三幅対にかゝる。此日、京師え店走り書状出。夜三更(迄)法帖認ル。

*茶飯(茶飲)

(七月) 十九日

此日昼時より名越え稽古に行、暫して夫より木津え帰り一宿。

(七月) 廿日

朝、お千の子連て楚山先生え御礼に行、帰り候処、母さま急病差起り大驚。いろ／＼いたし候へとも、此日、終日腹いたみ通し。

(七月) 廿一日

此日、少々よき方ニ向候へとも、腹いたみ止かね、大ゐに困り入候。

此日、子供稽古始。

(七月) 廿二日

此日早朝、木津より中之島え帰り候。

(七月) 廿三日

此日、八ツ上りして、辻氏え行、夫より井上氏え行、教して、夫より木津え帰り一宿。

(七月) 廿四日

御地藏祭りにて終日御供養する。夕、地藏廻りする。

此日、京師より殿様御書下り候。

(七月) 廿五日

早朝、中之島え帰り候。夜三更(迄) 和哥。

(七月) 廿六日

此日、八ツ上りして、辻氏え行、夫より薩摩堀行かけ、玉泉寺え寄、暫遊ふ。名越え行、法帖認、帰り候、夕方也。夜二更迄読書、手本認ル。

(七月) 廿七日

此日、八ツ上りして、肖像下図認ル。此時、会津藩木村理左衛門来、書画認頼まれ早速二認くれ様申ゆへ、無拠認ル。半切書画横物書認ル。夕方帰り候。

(七月) 廿八日

此日、肖像認ニかゝる。

(七月) 廿九日

此日、肖像認ル。

(七月) 三十日

此日、肖像認上ル。八ツ上りして、玉泉寺行。後室さまに髪結てもらふは**つ**の処、やはり一通りの方よきと申され、夕方帰り候。

*はつ(筈)

(八月)

八月朔日

早朝より彼岸参りの**こしらへ**いたし候へとも、雨中にて止ル。昼後、辻氏え御礼に行、七ツ時に帰り候。

*こしらへ(拵へ)

(八月) 二日

(コノ日、記事ナシ)

(八月) 三日

此日八ツ後、井上氏え教に行、夫よりいつ吉え刷毛、筆、調に行、夫より木津え帰る。此時、雨降、一宿。

*いつ吉(泉吉)

(八月) 四日

朝早く中之島え帰り候。此日、山西画頼みに来り候。

(八月) 五日

此日、井上氏え教二行、夫より土橋え帯取に行、帰り、もはや夕方也。

(八月) 六日

此朝、父さま御帰り遊し候。昼後より木津え帰られ候。私事、井上別荘行のはつ、雨中にて止ル。

*はつ(筈)

(八月) 七日

此日、三幅対認ル。父さま又々帰られ候て、又木津え帰られ候。夜五更迄和歌。

(八月) 八日

此日、子供半日休して、隣家兩人と同道にて天王寺え参詣する。楚山先生え行、夫より雲水え行、クチャ食て、夫より茶臼山のほとり行まゝに、山の下の池のけしき殊更面白く、水鳥などむつれて遊ぶさま、いとやさしく、所々桜などかへり花咲候て、是も又珍らしく、草むらにハ虫など、このもかのもに声たてけれハ、

見聞くたに行もやられぬ秋のハ花のさかりに虫の声々

などゝ口すさひしつゝ、此帰るさ、いとおしく候へとも、日も西にかたむくまゝに月さへ出て、せんかたなく此月と共に帰り候。夜、三十六歌仙写。

*むつれて(睦れて)

(八月) 九日

此日昼時、辻氏え教に行、早々帰る。此日、六歌仙写。夜も写し物。

(八月) 十日

此日、父さま帰られ候。夫より又木津え帰られ候。写し物する。夕方、卯野え沈香調に行候。扇子十本調ル。此日、天王寺より菓子着。夜、長谷川来候へとも不逢。

(八月) 十一日

此日、扇子十本認ル。夜、写し物。此日、土州池内精吉子画頼に来られ候。

(八月) 十二日

此日、父さま乗船の**はつ**、帰り刻限を**そく**候て、もはや舟なく、此夜、一宿致され候。

*はつ(笈) *をそく(遅く)

(八月) 十三日

父さま、朝より所々方々え行かれ候。此日、木津智明院来り候。夕方、帰られ候。父さま御き**けん**よく乗船致され候。此夜、月殊更清光、舟うらやましく候。此夜、隣家にて一更迄遊ぶ。一夕話読、二更二臥。

*きけん(機嫌)

(八月) 十四日

此日、写し物する。夜、法帖認、三更二臥。昼、辻、井上氏え行。此夜、空曇り、二更頃より月清光。

(八月) 十五日

朝より名越え稽古二行、夫より木津え帰り候。夕暮、中之島え帰り候。月十年以来稀成清光、真に妙也。雲なくして空冷しく、月面白く候へ共、あまり寒さに内え**は入**、又戸明て詠め、かたふく迄心なくさめ候。

*は入(這入り) *明て(開けて)

(八月) 十六日

此日、辻、梶木町え行、夫より帰り、写し物、夜、和哥、三更二臥。此夕、キリヤウさま来られ候て、暫咄して帰られ候。

此夜も月清光。

(八月) 十七日

此日、扇面認。夜三更二臥。写し物。

(八月) 十八日

此日、扇面認ル。夜二更半迄写し物する。

(八月) 十九日

此日、終日写し物。夜五更迄和歌。

(八月) 廿日

此日、終(日)写し物。夜三更迄読経。

(八月) 廿一日

此日、三十六歌仙写落製する。夜三更二臥。此日、京師ヨリ店走り書状来。

(八月) 廿二日

此日朝、松助方へ行、夫より木津氏へ行、帰り候。扇面四枚美人墨書する。此夕、紀州より美人帰る。夜三更二臥。

(八月) 廿三日

此日八ツ後雨中、井上氏え美人持行、画の法帖認、夫より有所遊にて源氏講訳聞、夜半時迄。夫より帰る。二更二臥。

*講訳(講釈) *半時(飯時)

(八月) 廿四日

此日八ツ後、辻氏え教に行、夫より木津え帰る。一宿する。

(八月) 廿五日

此日、昼後より帰り懸、薩摩堀西村氏へ行、画の稽古して帰り候。楚山先生より文来。

(八月) 廿六日

此日八ツ後時、京師より文、哥合も来。調物注文申来。早々卯野え薰り物調に行、夫より帰り、荷つくりする。飛脚不来。夜三更二臥。

(八月) 廿七日

此日、子供半日して、楚山先生へ行。此日、油吉応挙十哲軸物むし干有、夕方迄縮図する。夕方二帰り、木津にて一宿。此日、池内氏来られ候へとも留主にて不逢。

(八月) 廿八日

朝、中之島え帰り候。八ツ後、井上氏より呼に来、行、七ツ時に帰り候。京師包物出。

(八月) 廿九日

此日、田淵氏画表具、和歌の浦認ル。夜五更二臥。

(八月) 晦日

此日、田淵氏箇春秋の図認ル。此夕、山西画表具取に來。夜三更二臥。

(九月)

九月朔日

此日朝より障子張。夜三更二臥。

(九月) 二日

此日、八ツ上りして木津え帰り候。此夕、大国神え參詣して、昔咄聞。母さまと同道也。一更二帰り、臥、一眠りして母さま急病差起り大困り。夜通しする。

(九月) 三日

此日、終(日) **かいほう**する。やはり腹いたみ通し。夕方、**いし**來、**はり**してもらい候。
*かいほう(介抱) *いし(医師) *はり(鍼)

(九月) 四日

此朝、中之島え帰り候。終日画認。七ツ時、井上氏え行、早々帰り候。夜四更迄書画認ル。

(九月) 五日

此日、鴻市より柳川屋敷振舞にて北池田別荘え行、席画**大はつみ**、一更二帰り候。此日、子供半日休。此日、岡順治郎子、母さま御病氣又々あしくゆへ、私に帰る様申し來られ候。
*大はつみ(大弾み)

(九月) 六日

朝、又々木津より使、箔四郎來、**はやく**帰り様と申故、子供此日半日限にして、木津え帰り候。

*帰り様(帰る様)

(九月) 七日

母さま此日もあしく、時々**シヤク**差込候。此日、願泉寺え彦根着。

*シヤク(癩)

(九月) 八日

此日もあしく候へとも、節季ゆへ、朝、中之島え帰り、諸払して、八ツ過二木津え帰り候。

(九月) 九日

此日に至て追々によろしく候へとも、やはり時々いたみ候。

(九月) 十日

此日、同しく。

(九月) 十一日

此日より子供稽古初にて中之島え帰るつもりに候へとも、母さまいまた御病氣治りかね候まゝ、少々**かいほう**致す様申され、夫より早朝、中之島え帰り、子供に断申て、今日休む様申願、夫より辻氏え行て、御後室さまいろく御心配下され、いろく薬、食物下され、昼飯呼れ候て、木津え帰り候。雨中也。早々右薬上ヶ候処、夫よりいたみ相止候。此日、京師え母さま御病氣様子申出シ候。
*かいほう(介抱)

(九月) 十二日

此日、追々よろしく候まゝ、子供八ツ上りして、楚山先生え御礼に行、七ツ時に帰り候。

此日、隣家播州え立れ候。

(九月) 十三日

此朝、京父さまより文返事来、皆々大驚。御薬来り候。父さま御下りのよし、申越れ候。

(九月) 十四日

此日、追々よろしく候。此夜初更に父さま御帰り遊し候。

(九月) 十五日

此日、父さま天下茶屋え行れ候。母さま追々よろしく候まゝ、私、七ツ時前より中之島え帰り候。日暮候也。

(九月) 十六日

此日、井上御きたさま別荘え行れ候まゝ、誘に來。此時、父さま御越遊し候。八ツ上りして北別荘え行、夫より瓢春亭行、終(日)馳走遊し、日暮後帰り候。

(九月) 十七日

此日昼時、中之島え父さま來られ候て、小笠原壱岐守見舞に行れ、夫より木津え帰られ候。此日、高岡外二人、画入門いたし候。

(九月) 十八日

此日昼後、父さま中之島え来られ候て、八ツ上りして父さまと同道にて辻氏え行、早速木津え帰られ候。小橋屋迄同道して、私、中之島え帰り候。此時、木村子来、夕方に帰られ候。此時、(以下記述ナシ)

(九月) 十九日

此日八ツ後、梅林山水認ル。

(九月) 廿日

此日、半切物書沢山認ル。八ツ時、京師御殿より店走りにて文来。蓮観院様仰せられ候、母も病氣追々よき赴ゆへ、左衛門下坂の幸故、木津、中之島、両家とも女壱人ゆへ安心ならぬ事故、早々家のかた付して京師え引越候様仰せられ候。木津え文持参のつもり。父様、此時中之島え帰られ候て、右の文ゆへ、私事、木津え相談に帰り候。母さまはとふもいやの様子にて、私方斗引越くれ様申され候。此夜、木津にて一宿。此夜七ツ時、供揃彦根入城仕られ候。

*仰せら(さ)(ママ)いれ *とふも(どうも) *いや(嫌)

(九月) 廿一日

朝、中之島え帰り候。夫よりいろ／＼かた付物する。此日より子供暫休のよし申付候。

(九月) 廿二日

此日、家道具類かた付、木津行の道具船え積、又々京行道具大小え出、終日大騒動也。

(九月) 廿三日

此日、辻さまいとま乞に行、酒肴にて呼れる。此時、異人船ハツテラニテ九人、大川筋来、天満橋辺より跡え引帰り候。此日、私事乗船のつもり、將軍上京ニ付船止、不行。

*いとま(暇) *ハツテラ(バツテラ) *跡(後)

(九月) 廿四日

朝五ツ時、陸路にて出立、七ツ時、中城田尻え着。此夜、酒肴にて一宿。

(九月) 廿五日

出立のつもり、雨中にて不立。終日酒肴、席画などして遊ぶ。常称寺来られ候。

(九月) 廿六日

少々雨降候へとも出立する。此時、熊治子もグングノ道迄送られ候。芥川より駕に乗、東

寺より歩行して、五ツ時前、御殿え上り候。
*グングゲ(郡家)

(九月) 廿七日

此日もコテくくしてくらし候。

(九月) 廿八日

(コノ日、記事ナシ)

(九月) 廿九日

晦日

此日、箆笥、両懸、道具類着。

*〔晦日(衍)〕

(十月)

十月朔日

越前屋敷牧村取次之全紙梅林山水認ニかゝる。

(十月) 二日

此日、画認ル。

(十月) 三日

(コノ日、記事ナシ)

(十月) 四日

(コノ日、記事ナシ)

(十月) 五日

(コノ日、記事ナシ)

(十月) 六日

(コノ日、記事ナシ)

(十月) 七日

(コノ日、記事ナシ)

(十月) 八日

此日、世間騒々しく、夜通する。

(十月) 九日

千世丸様、良姫様、岩倉御立退ニ相成、私事も御供いたし、琴、私、民部、供帰りいたし候。

*千世丸様(千重丸様) *供(共)

(十月十日から十六日、日記ナシ)

(十月) 十七日

父さま、民部、伊三郎、夜船ニ而下坂致され候。

(十月十八日〜廿一日、日記ナシ)

(十月) 廿二日

父さま、民部、伊三郎、帰殿いたされ候。

(十月) 廿三日

御蔵御棟上ケ、御祝酒にて御賑々しき事也。

(十月廿四日、日記ナシ)

(十月) 廿五日

朝より岩倉石山様え父さまト同道にて参り、薄茶など戴、終日咄して帰り候。

(十月廿六日〜三十日、日記ナシ)

(十一月)

十一月朔日

殿様、対州屋敷え御立寄、祇園え御社参、酔月楼ニ而御小休、青木晟治郎御案内ニ而丸山はしのりやうえ御成。私事、寺町三宅迄行候处、民部、幸治、呼に來、早速行、いろく

馳走、殿様御席書あらせられ候。私事、書画認ル。後、山猫共来、いろ／＼歌舞、賑々しき事也。日暮、御帰殿あらせられ候也。
*りやう(寮)

(十一月二日～四日、日記ナシ)

(十一月 五日)

此日、千重丸様、万里小路様え成らせられ、御供、私、千世滝、表五人。御席書遊し、私事も席書画いたし、七ツ時ニ御帰殿あらせられ候。

(十一月六日から三十日、日記ナシ)

(十二月)

(十二月一日～八日、日記ナシ)

十二月九日

対州大島友之丞旅宿え招かれ、父さま、私、お柳子、其母子、下部連て行。夕暮也。此時、家老古川氏面会して、いろ／＼馳走、書画認。夜五更也。帰り臥。此日、遠山家来杉山栄、輝子連て画見に来。外に白木屋画工連て来。石山様御襖二間四枚、不二、裏波擣雁、沓間二枚襖、三保の松原、此方御玄関御襖、波日ノ出、裏失竹、専徳寺沓間半四枚襖、四季草花中彩色落製也。

*裏波擣雁(裏波擣雁) *裏失竹(裏失竹)

(十二月十日、十一日、日記ナシ)

(十二月 十二日)

御殿御すゝにて、七ツ時前、相済候也。

*すゝ(煤)

(十二月 十三日)

此日、私宅え屋移りいたし、御上不残ならせられ、終日酒肴にて呼。

(十二月 十四日)

父さま、私、浅井、同道にて真如堂え行、方丈にて遊ぶ。四ツ時、帰殿致し候。

(十二月十五日〜十七日、日記ナシ)

(十二月) 十八日

節分、目出度相濟候也。

(十二月十七日〜廿四日、日記ナシ)

(十二月) 廿五日

御かちんつき、大賑々しく目出度濟せられ候。

(十二月) 廿六日

平戸留主居本沢甚兵衛上る。殿様御席書遊し、私事も席書する。

(十二月廿七日〜廿九日、日記ナシ)